

自立支援局だより

第29号 2015. 12発行

第36回 リハ並木祭

10月9日、10日に今年で36回目を迎えるリハ並木祭が開催されました。当日はお天気にも恵まれ、多くの方にご来場をいただきました。利用者の方々も、訓練の成果の発表、イベントの担当をされたりと、準備から当日の発表まで大いに活躍されました。

また講堂では、開会式、東京サロンオーケストラの生演奏等がありました。

☆開会式司会 八巻 和彦さん（就労移行支援＜養成施設＞）

「一開式に先立ちまして、皆様にお願いがございます。」

この第一声を出す時が、一番緊張しました。一言目が出た後は、“噛まないように”“早口にならないように”とそれだけを注意しながら進行をしていました。緊張しているうえに、もともと喋るのが好きで、話し出すと止まらなくなってしまう癖があるので、リハースルでは早口になり噛んでばかりでした。職員や手話通訳さんと打ち合わせをして、本番では、聞こえる方にも、聞こえない方にも分かりやすいように、ゆっくり話すことを心がけて話しました。

リハースルの成果か、本番はスムーズに話すことが出来ました。開会式が終わった後に手話通訳さんや同級生に「バッチリだったよ!」「うまかったじゃん」と言われたことが、とても嬉しかったです。来年も依頼があればやってもいいです（笑）。



開会式の様子

按摩研究会代表 朝溪 直紀さん（就労移行支援＜養成施設＞）

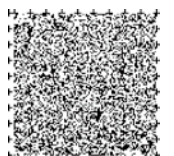


盛況だった按摩体験コーナー

今年も多くの方々に按摩体験コーナーを利用して頂き、ありがとうございます。

3年間按摩体験コーナーをやらせて頂きましたが、毎年開始30分で予約が一杯になりました。その後の案内・誘導などなかなか大変でしたが、あっという間に時間は過ぎて、終わってみるととても短く感じられました。

協力頂いた先生方、3年生の皆様、2年生、1年生に感謝致します。今年で私の按摩研究会での役目は終わりますが、伝統のあるこの体験コーナーが続くことを願っております。



☆リハ並木祭実行委員で活躍して頂いた利用者皆様の感想

斎藤さん（生活訓練）

生活訓練課は、フランクフルトの販売と訓練紹介を行いました。また、僕は実行委員として表彰状を渡す係を行いました。

職員の方と毎回話し合いに参加したり、皆の前で発表することが大変でした。実行委員としての重みはありましたが、それを打ち返して本番は頑張れました。準備は大変だったけど、本番は成功したので最高でした！！いろいろな障害者がいる並木祭は本当に素晴らしかった！また、車椅子バスケットも出来て良かったです！



生活訓練 斎藤さん 賞状授与のお手伝いをして頂きました。



ポップコーンとフランクフルト好評のため3時間で完売です！

野口さん 原澤さん（機能訓練<視覚>）

当日は、私たちが普段受けている訓練の紹介をしたり、ポップコーンの販売をしたりしました。ポップコーンには数種類のフレーバーを用意し、好評を頂いたようで無事完売することができました。自由時間には、共に訓練を受けている仲間とグルメストリートでカレーや焼団子を食べ歩きました。施設内だけでなく、外部の人とも交流を持つことができ、この日は学生時代を思い出させるような充実した一日となりました。

大出さん（機能訓練<肢体>）

私は今年度の並木祭の実行委員に任命されました。初めての並木祭で不安と緊張の連続でしたが、たくさんの関係者の皆様のご協力のもと進行は順調に進み、自立訓練部の出店したポップコーンとフランクフルトは見事に完売することができました。

当日は天候もよく、地域の方々や学生などの多くの方が訪れ、とても賑わいました。実行委員としての達成感もあり、とても良い経験になりました。

この素晴らしい並木祭にぜひ来年も参加したいです。ありがとうございました。



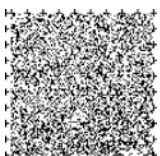
実行委員 大出さん



利用者の中田さんと職員の前田さん 開会式も終わりホッと一息



視覚障害者のパソコン訓練や遮光眼鏡など紹介しました。



木戸 晶子さん（自立訓練部職員）

私たち自立訓練部は、リハ並木祭で訓練紹介と模擬店に取り組み、日頃の訓練の成果を地域の方々にご覧いただくことができました。訓練紹介については、機能訓練（視覚障害、頸髄損傷）、生活訓練（高次脳機能障害）、それぞれの部門で話し合いや準備を進めました。

日頃の訓練を紹介したパネルの展示、訓練で使用している道具や作成したものの紹介、白杖体験や車いす体験等の企画を行いました。

模擬店については、自立訓練部初の試みとなるポップコーンとフランクフルトを販売しました。材料や販売価格、販売個数等話し合いを重ね、協力して準備を行いました。特に、皆さんに喜んでいただくために美味しいものを提供できるように、試食しながら味選びにこだわりました。その甲斐あってか、販売開始から3時間以内で完売し、達成感もひとしおでした。

通常の訓練とは違った環境の中で、利用者の皆さんがお互いに協力し合いながら、地域の皆さんとも交流を深めることができました。来年も力を合わせ、ぜひ皆さんに楽しんでいただける並木祭にしたいと思います。



頸髄損傷者の訓練等を紹介しました。



生活訓練の訓練内容をパネルで紹介しました。

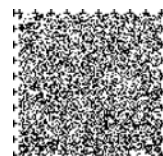
実行委員 水鳥政喜さん（総合支援課職員）

今年度は、「咲き誇れ、個性」をテーマに、53の個性あふれる企画が出展されました。日々取り組んでいる訓練の紹介、利用者のクラブ活動の発表としてあん摩体験コーナーや、軽音楽部のライブ、車いすバスケットボール、ウィルチェアーラグビーのデモンストレーション、手話サークルの発表などが行われました。近隣地域からも、福祉施設、当事者団体、修了生などの参加があり、活動紹介の展示や模擬店への出展で並木祭を盛り上げて頂きました。国リハコレクション2015では、「さあ出かけよう、おしゃれして！」をテーマに、おしゃれな服、車椅子、杖など、様々なジャンルの展示や、体験などが実施されました。

今年度も多くの方々のご協力をいただき、無事に終了することができました事を感謝するとともに、厚く御礼申し上げます。次年度に開催される際もお越しいただき、利用者の皆さんが活躍されている様子をぜひご覧ください。



東京サロンオーケストラによる生演奏



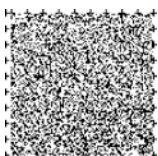
第2回就職セミナーを開催しました

理療教育・就労支援部 就労移行支援課 就労相談室

就労相談室では就職活動に向けた支援の一つとして年4回、就職セミナーを開催しています。8月31日(月)に開催した今年度2回目の就職セミナーでは、障害者を雇用する経営者の方と、就労している当センター修了者を外部講師としてお迎えし、障害者就労の現状や就労に向けて身につけておくべきことなどについての講話をしていただきました。これは就労へのイメージをより具体化させ、就労に対するモチベーションを高めることを目的としたもので、計44名の利用者の方にご参加いただきました。

まず、埼玉県上尾市にあるMCSハートフル株式会社の代表取締役社長・今野雅彦氏からお話しをいただきました。同社は「障害のあるなしに関わらず、一人でも多くの方が働く喜びを実感できる企業であり続けること」という企業理念のもと、現在60人以上の障害者を雇用しており、2012年には埼玉県障害者雇用優良事業所として認定された特例子会社です。親会社が運営するグループホームや有料老人ホームでの清掃作業の他、PCセットアップやデータ入力などの事務作業を行っています。

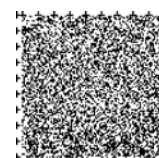
話の中で今野氏が採用条件としてあげたのが「あいさつができること」「自力通勤できること」「自分のことは自分でできること」といった項目。自分でできることとできないことを明確にして、周囲とコミュニケーションを図って助け合いながら、できることを伸ばしていくことが大切であることを具体例をまじえながらわかりやすくお話し下さいました。



つづいて、2007年に当センターを修了し、外資系広告代理店の株式会社 I & S B B D O に勤務する梅沢拓司氏に、就職するまでの経緯や現在の業務内容、仕事のやりがいなどについてお話しいただきました。梅沢氏は現在、総務でデータ入力や備品請求の対応といった業務に従事しています。

梅沢さんは8年前の採用面接を振り返り、「コミュニケーションはとれますか？」ときかれたエピソードを披露。そのときは何をきかれているのかピンとこなかったそうですが、入社後に質問の意味が理解できたといいます。「職場には多くの人がいて、中にはどうしても合わないタイプもいる。そういう人とでもしっかりと意思疎通が図れるかということ面接官はきいていたんですね」と、職場におけるコミュニケーションの重要性を伝えて下さいました。また、職場で大切なこととして「あいさつはとにかく大事です」と強調。「あいさつをまったく返してくれない方がいて悩んだこともありましたが、それでもあいさつし続けました」と話される梅沢さんからは、対人関係において大切なのは相手の態度ではなく、自分がどのように相手と接するかなのだという姿勢がよく伝わってきました。

講演後の質疑応答では様々な質問が相次ぎ、「雨の日はどのようなカップを使っていますか？」といった質問に対し、梅沢さんが実際に使用しているカップを広げて説明して下さいるなど、通勤時に役立つアイテムについても知ることができました。終了後のアンケートでは、半数以上の参加者からあいさつやコミュニケーションの重要性を改めて感じた旨の回答があり、「共感できることがたくさんあった」「とても為になった」という感想をいただくことができました。



あん摩マッサージ指圧応用実習

理療教育・就労支援部 理療教育課

この科目は、2年次に週4時間配当されている、あん摩、マッサージ、指圧といった手技療法を習得する実技科目です。

あん摩（按摩）の按は「おさえる」、摩は「なでる」を意味します。古代中国で生まれ、奈良時代に日本へ伝わりました。気血や経絡の変調を調整する手技療法で、衣服の上から遠心性（体の中心から手足に向かって）に施術するのが特徴です。

マッサージ（Massage）という言葉の由来はフランス語ですが、その語源はギリシャ語の「揉む（マッシー）」とアラビア語の「押す（マス）」という意味です。ヨーロッパで発祥し、明治時代に日本へ輸入されました。オイルやパウダーを用いて、求心性（手足から体の中心に向かって）に皮膚を直接刺激していくのが特徴です。主に血液やリンパ液の流れを良くします。

指圧は、日本で大正時代に成立され、衣服の上から、指や手掌（手のひら）等を用い、体表の一定部

位を押します。生体の変調を矯正し、健康の維持増進を図り、特定の疾病治療に寄与する施術です。

授業では、あん摩を中心に練習を行いますが、その他、腹部のマッサージやオイルマッサージ、指圧も取入れたりします。

腹部のマッサージは、腸の働きを活発させ、便秘などに有効ですし、オイルマッサージは足のむくみなどに有効なので、これらを実践して学びます。

1年次で身につけた基本的なあん摩マッサージ指圧の技術と、解剖学や身体診察法などの知識を活かしながら、3年次の臨床実習へ向けて、患者さんの状態に合わせた治療方針を組立てる力を養います。科目の名称に「応用」とついているのはそのためです。

このような科目を習得することにより、他人へ健康を提供する按摩マッサージ指圧師としての自覚を確立していくのです。

文責：牧 邦子

利用者募集のご案内

自立訓練（機能訓練）視覚障害

自立訓練（機能訓練）頸髄損傷

就労移行支援

自立訓練（生活訓練）高次脳機能障害

就労移行支援（養成施設）

<問い合わせ先> 国立障害者リハビリテーションセンター 自立支援局 総合相談課
〒359-8555 埼玉県所沢市並木4-1

TEL：04-2995-3100（代表）

FAX：04-2995-4525（直通）

E-mail：soudan@rehab.go.jp

